

2008年度「全国学力・学習状況調査」結果について

1 実施日 2008年4月22日

2 対象 小学校40校（全校） 第6学年 3,554人
 中学校20校（全校） 第3学年 2,785人

3 調査教科等 ○国語、算数・数学（主として「知識」に関する問題・主として「活用」に関する問題）
 ○児童・生徒、学校に対する調査

4 学力調査結果

【小学校】平均正答率 ※（ ）内の数値：平均正答数/問題数

	国語		算数	
	A：主として知識	B：主として活用	A：主として知識	B：主として活用
町田市	68.0% (12.2/18)	53.8% (6.5/12)	73.4% (13.9/19)	55.6% (7.2/13)
東京都	68.5% (12.3/18)	54.1% (6.5/12)	74.2% (14.1/19)	55.7% (7.2/13)
全国	65.4% (11.8/18)	50.5% (6.1/12)	72.2% (13.7/19)	51.6% (6.7/13)

【中学校】平均正答率 ※（ ）内の数値：平均正答数/問題数

	国語		数学	
	A：主として知識	B：主として活用	A：主として知識	B：主として活用
町田市	72.6% (24.7/34)	60.7% (6.1/10)	63.7% (22.9/36)	48.9% (7.3/15)
東京都	73.5% (25.0/34)	61.4% (6.1/10)	62.6% (22.5/36)	48.9% (7.3/15)
全国	73.6% (25.0/34)	60.8% (6.1/10)	63.1% (22.7/36)	49.2% (7.4/15)

5 調査結果から

<小学校>

本市平均正答率は国語、算数共に、東京都・全国とほぼ同じ数値を示しています。国語・算数共に、知識・技能を「活用する力」に全国的に課題があることがわかりました。例えば、国語については、「目的に応じて情報を読み取り、分かったことや自分の考えをしっかりと書くこと」や、「目的に応じて必要な情報を取り出して、効果的に書くこと」など、算数では、解決方法や理由を記述する問題などの正答率が低い数値でした。改善策として、疑問に思ったことを辞典や関連する資料集で調べたり、結果の正誤だけではなく、その結果に至るまでの考え方も確認したりする習慣を身に付けることが大切だと考えます。

<中学校>

本市平均正答率は国語、数学共に、東京都・全国とほぼ同じ数値を示しています。国語・数学共に、知識・技能を「活用する力」に全国的に課題があることがわかりました。例えば、国語については「根拠を示しながら、自分の立場を明確にして意見を書くこと」など、数学では「言葉で表された式の特徴から数学的な意味を考え、事象を式の意味に即して解釈すること」などの正答率が低い数値でした。改善策として、自分の言いたいことの中核や理由をはっきりさせることや、目的に応じた資料を適切に使い分けること、また、どのようにしたら自分が知っている知識で考えられるかということを振り返らせたり、考えの道筋を説明させたりする学習を取り入れることが大切だと考えます。